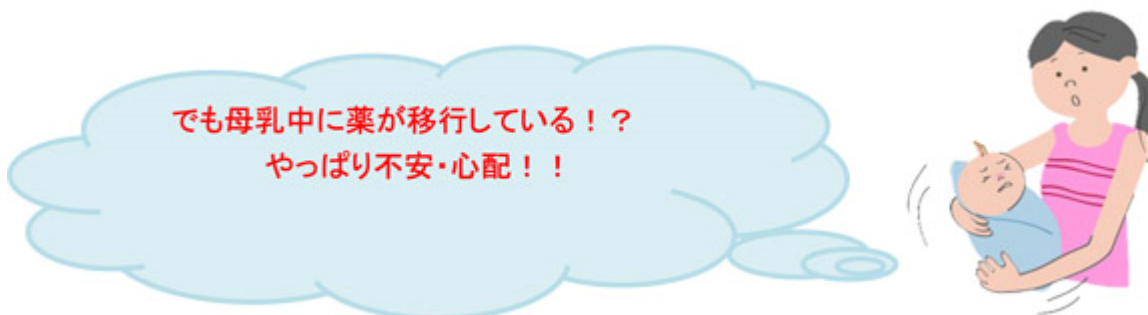


## ■ ～授乳と薬について～

今回は、授乳中の薬の使用についてお話します。母乳をお子さんにあげられているお母さん方では一度は気になったり、心配されたことがあるのではないのでしょうか？

服用された薬の一部は母乳中への移行が認められています。多くの医療用薬や一般に売られている薬の説明書の記載には、授乳を中止するようにとされています。これは安全性を重視した記載となっているためで、実際の母乳保育では難しい場合が多いのではないかと思います。授乳を中止することによって乳腺炎などの乳房トラブルが起きたりすることも考えられます。また薬物治療中のお母さんが授乳をさせたいがあまり、薬の服用を中止することによるお母さんの病状の悪化も予想されます。これらの状況を回避するためにも、安易な授乳中止は避けるべきと考えられています。



実は多くの薬においては、母乳中の薬物量などを測定された研究などから、お子さんが母乳を介して摂取する薬物量は、非常に少量であることがわかってきています。また母乳栄養・授乳の様々なメリットがお子さん及びお母さんの双方にあることがわかってきています。例えばお子さんにとって母乳は豊富な栄養源であり、また感染防御物質(Ig A、ラクトフェリン)が多く含まれており母乳を摂取した新生児では感染症にかかりにくいことが認められています。その他に、母乳栄養で育った人では糖尿病や自己免疫疾患などが少ないなどの報告もされています。お母さんへのメリットとして、産後の子宮復古の促進や乳癌や子宮がんになりにくいなどの報告もされています。

これらの情報から、薬を服用しているお母さんが必ずしも母乳保育をあきらめなくてはならないわけではなく、また母乳をあげるために必ずしも薬をやめる必要もないということになります。母乳保育とお母さんの薬物治療の両立は多くの薬では可能であると考えられています。しかしながら授乳への影響に関する情報が少ない薬もあり、服用している個々の薬についての十分な詳細な情報をもとに、主治医の先生と相談しながら授乳中の薬物治療を決めていくことが大切です。

参考サイト： 国立成育医療研究センター 妊娠と薬情報センター ママのためのお薬情報

<http://www.ncchd.go.jp/kusuri/lactation/jyunyu.html>

担当：薬剤部 小林 丈人